

平成 30 年度 政務調査研究報告書

(様式C)

会 派 名	会派のぞみ (文責：岡田 倫英)	支出伝票No.	
事 業 名	「岡山市都市交通戦略」		
事業区分 (該当へ〇)	①調査研究費	②研修費	③広報費 ④広聴費 ⑤陳情等活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費

(1)この事業の目的：どんな課題を解決するため あるいは誰・何を対象に何を意図するのか

2027年予定のリニア中央新幹線開業を見据える中で、飯田市ではリニアと二次交通の在り方が地域課題になっている。岡山市は2009年10月に都市交通戦略を策定、さらに2018年度から計画期間10年の市総合交通計画を策定。「充実したネットワークと誰もが利用しやすい公共交通」「人でにぎわう、歩いて楽しい都心空間の創生」に取り組んでいる。山陽新幹線が停車する岡山駅を中心とした二次交通体系は、リニア駅開業後と重ねて参考になる点多そうだと考えた。

なお岡山市には、国内初のバスステーションを併設した地元百貨店・天満屋がある。バスステーション開設を決断したのは、四代目社長で飯田市江戸町出身の伊原木吾朗(旧姓・松沢)という縁もある。

(2)実施概要

	日 時	訪問先・主催者等
調査・研修の場合の 実施日時と 訪問先・主催者	平成30年7月24日(火) 15時00分～16時30分	岡山市 都市整備局 都市・交通部 交通政策課 自転車先進都市室 室 長 吉本 憲司 氏 課 長 山本 孝賢 氏 公 共 交 通 係 課長補佐 是友 修二 氏 計 画 係 係 長 上山 大輔 氏 " 主 任 平田 晋一 氏

報告内容・実施したこと	<p>1 視察先(市町村等)の概要</p> <p>人 口：70万6000人 ※H28年現在 政令指定都市 世帯数：31万8000世帯 ※H28年現在 面 積：789.95km²</p> <p>2 視察内容</p> <p>【行政視察の概要】</p> <p>岡山市では●安全で快適な交通ネットワークをつくる、●日常の移動を便利にし、健幸な暮らしを支える、●歩いて楽しい都市空間に変える、などの目標を掲げて「都心と地域拠点との連携軸強化」「都心内の回遊性向上」に取り組んでいる。</p> <p>具体的にはJR吉備線のLRT化や都心内での通過自動車の流入規制、自転車利用環境の改善、歩いて楽しいまちづくりの推進などが挙げられる。</p> <p>市内の路線バスは9社の民間事業者により運行されていることから、運賃設定や支払い方法等のサービス統一化を図っている。</p> <p>都心部においてはいくつかの小地区(トラフィックゾーン)に分け、それぞれの地区への自動車の出入りは外周道路から行い、地区間の移動制限をゆるやかに推進。地区内を通過する自動車を抑制することで歩行者優先の区域を設けている。自転車の利用環境を改善するため、レンタサイクル「ももちゃり」の整備にも力を入れている。</p> <p>一方で郊外においては、移動困難者の多い地域でデマンド(予約)型乗合タクシー「ブンタク」が導入されている。</p>
-------------	---



もう一つのバスターミナルである「天満屋」の様子



岡山駅前で貸し出しているレンタサイクル「ももちやり」

まちの中心部で見られる、自転車優先ゾーンの標識

【JR岡山駅について】

岡山駅東口（新幹線口）は、1番から13番にわたるバスターミナルとタクシー乗り場、「ももちやり」乗り場が集まっている。路線バスは、ほとんどの路線が1キロほど離れた天満屋を経由し、天満屋がもう一つのターミナル機能を果たしている。現在は岡山駅から100メートルほど離れた場所にある路面電車の乗降場を駅口へ移動させ、より分かりやすく・使い勝手の良い駅前ターミナルにする計画もある。

西口は一旦2階広場へ出て、開放感のある造りになっている。こちらには7番にわたるバスターミナル（うち4路線は高速バス）が設けてある。



【岡山駅東口】

写真右上には、多様な公共交通の行き先を示すサインが見られる

【岡山駅西口】

2階のテラス部分に通じ、開放的な空間

1 感想

- ・持続可能な「コンパクトでネットワーク化された都市構造」。
- ・30年先をシミュレーションし、今の計画に活かしている。
- ・あるべき交通政策に向けて、「ゆるやか」に変化させていくことが重要ということが勉強になった。
- ・コミュニティサイクル「ももちやり」は台数が確保され利用割合が高い。加えて、市民意識調査における満足度（自転車の走りやすさ・施設での駐輪のしやすさ等）から利用環境等の改善が求められていることを把握している点。
- ・トラフィック・ゾーンの構築。これには的確な計画とかなりの歳月がかかった、あるいはかかると思われる。
- ・岡山市総合交通計画を、市の最高位の総合計画の一つと位置付け、将来の都市像を明確にしたうえで戦略が練られている。また、戦略構築にあたっては現状把握と市民の意識調査がしっかりとされていて、成果指標も明確である。

2 今後飯田市に活かせること等

- ・現状の課題をキチンと調査把握し総合交通計画を立てている点。
- ・路線バスは7事業者により運行されていることから、常日頃から利用する市民が一目で乗るバスがわかる表示に改良した。裏を返せば、地理関係のわからない来訪者にはわかりづらいことから、リニア駅での二次交通案内は市民と来訪者双方にとってわかりやすい表示が必要だということがわかった。
- ・交通政策に「健康増進による社会保障費の縮減」という視点を入れた。
- ・ヨーロッパ等での先進事例を参考にしながらトラフィックゾーンシステム構築に向けた検討が進められている点。
- ・岡山駅東側の公共交通ターミナルはバス、タクシー、LR T、自転車などさまざまな交通機関が乗り入れている。それぞれを結ぶ動線が長くなりすぎないように、また日よけ・雨よけを設けておく必要性をあらためて感じた。
- ・岡山駅西側はいったん2階部分に通じており、開放的な第一印象を持った。地上からの輻射熱や道路の騒音はあまり感じず、好印象だった。

(3) この事業実施後の対応及び方向性

- ・飯田市における「リニア長野県駅からの二次交通のあり方」への対応の参考にする。
- ・会派の次年度予算案に関する提言の参考とする。
- ・会派として調査継続中。